ある家族の七月一日

安倍内閣は、今年（2014年）七月一日、平和憲法を破壊する「集団的自衛権」行使容認の閣議決定を強行しました。これに対してある家族が、メールを取り交わしました。

《ある家族が「集団的自衛権」行使容認閣議決定に対して取り交わしたメール》

〇札幌で行われた「戦争をさせない北海道大集会」に参加しました。
よかったら見て下さい。http://www.asahikawa-nishi9.org/?p=893　沙織（長女）

〇いよいよ閣議決定だね。
あの戦争から７０年経とうというときに、再び、戦争ができる国になるとは、思いもよらなかった。
私は、本当に３人のこどもたちに戦争だけには遭わせたくないと思って、必死に走ってきた。真（しん）くんがバットの素振りを一生懸命にしている姿を見る度に、どんなことがあっても、このバットを、銃に変えて戦争に行かせてなるものか・・という一念で走ってきた。
私に、残された時間は短いけれど、この事態を変えるためにまだまだ頑張るよ。もちろん健康には気をつけるけどね。
私よりまだこれからの大事な人生がある、さおちゃん、ほなちゃん、真（しん）くんのこれからのためにも。そして、真帆ちゃんのためにも、真（しん）くんのところに生まれるかもしれない孫のためにも。たくさんの未来あるこどもたちのためにも。　知子（母）

〇大きな岐路を軽々と越えてしまうこの国ってなんだろうと思います。
安倍が集団的自衛権について記者会見したとき、横でテレビを一緒に見ていた真帆（5歳）が「これ、日本のこと？」と不安そうに聞いたのを覚えています。
子どもってわからないようで、何かを直感的に感じとるのかもしれません。
「戦争って動物もみんな死んじゃうんでしょ。戦争にならない？」
と涙目で聞いてくる真帆に、これからどう答えていいのかわからなくなってしまいました。
お父さん、お母さん、沙織さんたちのように、自ら動くことのできない自分に自責の念を感じています。やっぱり、お母さんは強いね。　穂波（次女）

〇日々の仕事に忙殺されるうちに、大切なものを失ってしまう感覚です。　「忙しい」のは言い訳以外の何ものでもないですが。。。　ただ、これで全てが終わった訳ではないはず。　「いつか来た道」をこれ以上引き返さぬよう、今度は自分達の番だということを肝に銘じて、次世代の未来のために身近なところから、僅かでも行動を起こせるようしたく思います。真（しん）（長男）

〇北海道で、立ち上がっている人々。
私は、沖縄と本土を結びつけ日本沖縄全国で立ち上がろうと、活動しています。
今日、沖縄防衛局は、辺野古海面に、立ち入り制限水域を設けました。基地内の工事も着工しました。状況は、政治面でも、具体的な基地建設面でも、極めて、厳しいものがあります。しかし、弁証法哲学は教えています。物事は、反対物に転化すると。戦争準備は、必ず、戦争反対の運動を強めます。それを強めるのは、私たちです。基生（もとお）（父）　2014年7月2日 7:54 PM